



約1500年の歴史を持ち、もともと堅牢な塗り物だったものに、江戸時代以降、京都から蒔絵を、輪島から沈金をそれぞれ取り入れ、華麗な装飾性を帯びるようになったといわれる越前漆器。椀類が中心だったが、角物といわれる膳類、重箱や手箱、盆、菓子箱など多様化し、近年は、新しいテーブルウェアなども続々登場している。1万年以上前から用いられている漆の伝統と優れた機能性はそのままに、現代の暮らしに溶け込むようなカラーリングや食器洗

浄機対応など、使いやすさを凝縮。おかず用や小さな丼鉢、取り皿としてはもちろん、アイディア次第でさまざまなシーンで用いることができ、使い込むほどに愛着の湧く一生ものとなる。

詳細動画はこちらから



漆の抗菌性や抗ウイルス性に注目、永く、丈夫に使える一生もの。

越前漆器のおはなし



産地全体で分業体制が確立しており、木地づくり、塗り、加飾などのさまざまな工程が高度に専門化しているのが特徴。今では伝統的な木製の漆器だけでなく、合成樹脂素材や化学塗料を使った多種多様な商品を消費者に提供することにも取り組んでいる

